

番号	議題	質問・意見	当日の回答・対応等
1	議題2	非稼働病棟等の状況の確認について、医療機関が記載した、支援の状況を踏まえて非稼働としている理由をそのまま取り扱うことに問題はないのか。	本調査は、基本的には各医療機関からの回答をそのまま記載しており、病院のスタンスも含めてそのまま受け取っていただき、その上でご意見をいただきたいと考えている。
2		病床数適正化支援事業について、民間病院と公立・公的病院を同一に扱うのはおかしいのではないか。	この事業は国による医療費の経営強化緊急支援事業の一つで、昨今の医療需要の急激な変化を受けて様々な課題に対して生じる負担を緊急的に支援するものであり、公立、民間の区別なく配分している。
3		県内で重責を担っている病院は今後の病床数についてどのように考えているのか。	大学病院は稼働率も高く、病床が足りないような状況になっている。県内の他の病院との連携や役割分担について県が中心となり、引っ張っていただきたい。（岐阜大学病院）
4			急性期医療や高度急性期医療を行う上で稼働率を維持することは難しいが、余裕を持つ必要もあるため、当面は現状のバランスで継続を考えている。長期的には、人口動態も含めて柔軟に考える必要もある。（県総合医療センター）
5			市民病院として経営強化プランを立て、病床数も含めて2040年を目指して検討を始めている。各病院間で連携を取らざるを得ない時期になっており、それぞれが取り組み中であると思われる。（岐阜市民病院）
6	議題3	西濃厚生病院の開院により岐阜市民病院や大垣市民病院の患者が減少し、多くのスタッフもハンティングされたことは大きな問題である。	
7	議題4	産科病床について、将来病床を増やすこと可能か。	産科は特殊な領域であるため特例的な医療法上の取り扱いがある中で、過去にも病床数純増を認めたケースがある。その時の状況を踏まえての判断にはなるが、可能性としてはあり得る。
8	報告事項1	「不足する外来医療機能」について、初期救急医療、在宅医療、公衆衛生とあるが、何をもって不足といえるのか。数値等があるのか。	当初から国のガイドラインに従って位置付けており、詳細な根拠は確認できていないが、これからかかりつけ医機能報告制度が始まり、公衆衛生の具体的な機能等を網羅的に報告していただくため、それらを可視化し議論を進めていきたいと考えている。
9	その他	大学病院として引き続き高度医療を中心に行っていく。県全体の医療人材派遣に関して大学としても取り組んでいく。	
10		病院として果たすべき機能について、しっかりと務めを果たしていきたい。県全体のことも視野に入れ、圏域の皆様とも協力しながら対応していきたい。	
11		地域医療の中で医師、看護師の確保は大変重要である。岐阜圏域は、数字上は医師数が多いかもしれないが、岐阜市から離れた地域では実情が異なるため、岐阜圏域をさらに細かく分けて議論したほうがよいのではないか。	

番号	議題	質問・意見	当日の回答・対応等
12		人口構成や疾病構造が変わる中で、病診連携に加え、介護との連携も必要になってくる。先々ダウンサイジングの方向へ進むと思われるが、個々の医療機関の役割についてもしっかりと考えていく必要がある。	
13		医師会の看護学校や准看学校が次々と閉校する事態が発生している。重要な人材の供給元がなくなるという事態を抑制するために、准看護に対する県の補助、支援をよろしくお願いしたいと思っている。	
14		看護職は今、急性期から在宅医療まで幅広く必要とされている。これからは在宅医療の視点を入れて、看護職の配分を具体的に考えていただきたい。 また、介護との連携を繋いでいくのも看護職であるため、役割を明確にしていきたい。	
15		物価や人件費の高騰により、病院経営、診療所経営が非常に厳しくなってきている。今後もより一層の県からの補助をお願いするとともに、補助金を知らずに申請していないというところがないよう、周知に努めていただきたい。	
16		現在、病院薬剤師が不足している中で、確保に向けて新卒説明会や公立病院薬剤師の給料引き上げ等に取り組んでいる。	
17	アドバイザー	岐阜県並びに岐阜医療圏の状況について、人口構成自体が大きく変わる中で、10年後20年後を見据えて地域医療のあり方を議論していただきたい。長いスパンでの医療を今後も考えてもらいたい。	
18	アドバイザー	人材確保について、医師の地域枠制度が始まって10年が経ち、不足地域への偏在化対策の取組み、各地域に根ざした医療圏ごとへの研修などがスタートしている。地域枠の学生の育成は非常に時間がかかるが、今後も病院実習等、医学生教育にご協力を賜りたい。	